

立冬を過ぎて暖冬を予感させる穏やかな気候が続いていました。この日はなごや生物多様性センターの一斉調査に因んでひつつき虫をテーマに取り入れて歩くことになり、いろいろなひつつき虫を観察しました。

里山の家での持ち込み観察項目：なごや生物多様性センターのひつつき虫調査の同定資料

里山を家の横の倉庫の軒下でアオスジアゲハの幼虫がじっとしていました。蛹になる準備をしているように見えました。トンボが大好きな少年が、捕えたヒメアカネを見せてくれました。高校生がヤナギの朽木の根元を掘り返すと、マルカメムシ、ワラジムシ、カブトムシの幼虫とコガネムシの仲間の幼虫が出てきました。



アオスジアゲハの幼虫



ヒメアカネ



カブトムシ(右)と  
コガネムシの幼虫

3種類のひつつき虫を続けて観察しました。イノコズチとコセンダングサとキンミズヒキです。イノコズチにはヒナタイノコズチとヒカゲイノコズチがありますが、一見しただけではその違いはわからないとのことでした。キンミズヒキの実のトゲは触ると柔らかいのですが、気づけば洋服のあちこちにくっついていました。



イノコズチ



コセンダングサの実



キンミズヒキの実

ハンノキでは昨シーズンの実と今年の雄花を観察しました。雌花は見当たらず、少しあとで咲くとのことでした。虫網でスウィーピングによる虫捕りをしていた大人の参加者が、採れた虫を見せてくれました。トビイロツノゼミとコミミズクの幼虫でした。どちらもカメムシ目で、この観察会では初めて観察する昆虫です。



ハンノキの雄花



トビイロツノゼミ



コミミズクの幼虫

せせらぎ沿いの草むらではオオオナモミが見られました。10年くらい前までは容易に見つかりましたが、近年ではすっかり見かけなくなっています。外来種ながらいつの間にか貴重な存在となりました。アメリカセンダングサはコセンダングサに比べ、種子の幅が広いのがわかりました。アレチヌスビトハギは探さなくても至る所で見られました。鞘から種を取り出して食べてみた参加者は「豆の味がする」と言っていました。



オオオナモミの実



アメリカセンダングサの実



アレチヌスビトハギの種

せせらぎでは子どもたちが水網でカダヤシとミナミヌマエビをすくいました。高校生の参加者が、メダカとの見分け方や、もともとは蚊を駆除するために外国から移入されたものであることなどを説明しました。別の高校生が看板の裏にいたヤモリを捕らえました。小さめの個体でした。同じ高校生がオオスズメバチを素手で持ってみんなを驚かせました。しかしこのスズメバチはオスで刺される心配がないとわかり一同安心しました。



カダヤシとミナミヌマエビ



ヤモリ



オオスズメバチの♂

ヨシの穂で衣服をなぞると種がくっつくので、これもひつつき虫と言え、くっつくくみは静電気であると説明がありました。里の道を通って里山の家に戻る途中、チヂミザサを観察しました。触ってみた子どもが「ベタベタする」と言っていました。そのすぐ近くで、この日最後のひつつき虫、ミスヒキの実を観察しました。



ヨシの穂



チヂミザサ



ミスヒキの実

里の道沿いではフユノハナワラビを観察しました。シダ植物の仲間で、葉を押さえると胞子が飛ぶのが見える場合があるとのことですが、残念ながらこの時は確認できませんでした。夏にアケビの花を観察した木には手の届くところには実がありませんでした。しかし一部の参加者が執念を燃やして道具を使って遠いところの実を採り、子どもたちを喜ばせました。足元のチカラシバでは茎を結んで罾を作る昔の遊びが紹介されました。



フユノハナワラビ



採れたアケビ



チカラシバ

たわわに実ったマメガキの熟した実を食べてみました。皮は指で簡単にむけ、口に入れると初めは甘さを感じましたが、あとから強烈な渋みがやってきました。最後にムラサキシキブの実を観察して里山の家に戻り、採ったアケビの実を切り分けて食べました。一部の参加者は外に出て種飛ばしをして飛距離を競い合いました。



マメガキ



ムラサキシキブ



アケビの実を切り分ける

平和公園での観察項目: アオスジアゲハの幼虫, ベッコウバチの巣, マルカメムシ, ワラジムシ, カブトムシの幼虫, コガネムシの幼虫, ヒメアカネ, ハクセキレイ, ヤガの仲間, キンミズヒキ, コセンダングサの実, ナナホシテントウ, アカマンマ, ヌルデ, ハンノキの雄花, ハンノキの実, クコの花, クコの実, アベマキのドングリ, クサカゲロウ, キクイモ, ジョロウグモ, イノコズチ, トビイロツノゼミ, ツマグロオオヨコバイ, ウラギンシジミ, ショウリョウバッタ, オオオナモミ, アメリカセンダングサ, イオウイロハシリグモ, キタキチョウ, ツツジの花, ヤマトシジミ, マユタテアカネ, イセノナミマイマイ, クモの卵囊, カキノキ, アメリカザリガニ, ジュズダマ, カダヤシ, ミナミヌマエビ, チカラシバ, ノコンギク, アレチヌスビトハギの実, アレチヌスビトハギの根粒菌, カマキリ, コミミズクの幼虫, ヤモリ, オオスズメバチの♂, オオスズメバチの♀, ヨシ, ヒヨドリバナ, フユノハナワラビ, ガマズミ, アケビの実, チヂミザサ, ミズヒキ, ノイバラの実, ヤブガラシの実, ノブドウの実, アマチャツル, イトトンボ, マメガキの実, アキノノゲシ, ムラサキシキブ